日本学研究所主催 第55回研究例会

第2回 海外の日本文化研究 ーその動向と可能性ー

司会・コーディネーター:鈴木 彰(立教大学文学部教授・日本学研究所所員)

「『落窪物語』における笑いの方法」

Oriane Guillemot

(INALCO フランス国立東洋言語文化大学大学院生)

専門:日本中古文学。

「近世俳諧における中国詩人の受容―松尾芭蕉と陶淵明を中心に―」

逢雲霞

(華東師範大学大学院生)

専門:日本近世文学。

「イノベーションの国としての日本のイメージ」

Manent Margaux

(立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期課程2年)

専門:日本現代史・イメージ史。

立教大学には多くの留学生が在籍し、スーパーグローバル大学(グローバル化牽引型)にも指定されており、研究の国際化や国際交流の中核を担う大学として期待されている。しかしながら、本学の留学生の研究内容やその問題意識は、学生や教員間において必ずしも十分に共有されているとはいいがたい。そこで本例会では、今後海外において日本文化研究を推進していくであろう留学生たちによる研究発表を行う。海外各国における日本文化研究の動向や関心についても発表者による報告を行い、世界における日本文化研究の今後の方向性や可能性について議論したい。【申込不要、入場無料】

【日時】2016年7月16日(土)14:00~17:00

【場所】立教大学 池袋キャンパス 5 号館第 1・2 会議室

【対象】学生、大学院生、教職員、一般

【予約】不要(入場無料)